

まずは「目標」の明確化と「題材を貫く課題」の設定から
 令和3年度 中教審答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」
 において、「子供たちの知・徳・体を一体で育む『日本型学校教育』は、
 全ての子供たちに一定水準の教育を保障する平等性の面、全人教育とい
 う面などについて諸外国から高く評価されている」とした一方で、「学
 校の臨時休業中、子供たちは、学校や教師からの指示・発信がないと、
 『何をして良いか分からず』学びを止めてしまうという実態が見られ
 た」と指摘されました。

奈須正裕氏（上智大学）は、1990年にR. K. ブランソンが来るべき情
 報化社会を見据えて提起したモデルを参考に、「個別最適な学びと協働
 的な学びの一体的な充実」について説明しています。

教師が子供に正解を一方向的に教え込む構図を過去のモデル（図1）と
 し、教師と子供、子供と子供の間で双方向のやり取りがなされる構図を
 現在のモデル（図2）としています。日本の教師は子供の問いを大切に
 してきましたが、「なるほど、皆さんの意見から今日はみんなでこのこ
 とを考えてみましょう。」といった具合に、教師の発問の形で改めて子
 供に問いかける場面が多かったのではないのでしょうか。

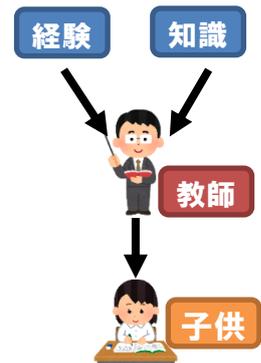


図1 過去のモデル

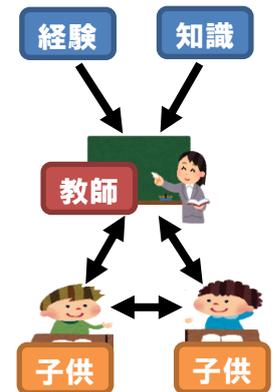


図2 現在のモデル

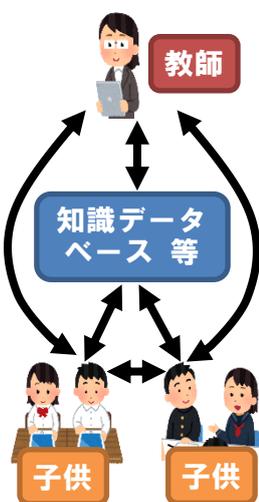


図3 未来のモデル

これに対し、未来のモデル（図3）では子供が一人一人の都合とタイ
 ミングで知識データベース等にアクセスし、各自が主体的に学びを進め
 ていく姿が描かれています。このような状況が個別最適な学びには不可
 欠であると言えます。

では、何から始めればよいか。やはりまずは、子供たちにどのような
 資質・能力を育成するのか、「目標」を明確にし、子供と共有すること。
 そして、その資質・能力の育成に向かう「題材を貫く課題」を設定する
 ことから始めましょう。そこから、学習過程を進める中で、子供の姿を
 見取りながら、子供たちでできそうなところを見つけ、思い切って任せ
 てみてはいかがでしょうか。

1、2部会の実践紹介

上島小 5年「整理整頓で快適に」

本学習では、整理整頓とは何かを押さえた上で、実際に自分の道具箱の整理整頓を行った。整理は個人で行い、整頓は友達と工夫を交流しながら行った。また、整頓の際には、タブレットを活用し、整理整頓前後の道具箱の様子を写真に残し見比べた。学習の最後に「整理整頓をしてみてどんな気持ちになったか。」「今後、快適に生活するために学習をどのように生かすか。」という視点で振り返りを行った。

【成果】

- ・道具箱を題材にしたことで、意欲的に取り組むことができた。
- ・整頓をグループで行ったことによって、「使う頻度」「形」「大きさ」など、自分に合った視点で整頓をすることが大切であることに気付いた。



【課題】

- ・見た目をよくすることに重点を置き、なぜそのように整頓したかまで考えられない児童がいた。
- ・授業だけで満足している児童もいたため、家庭でも実践をして、学習を日常生活の中に生かしていけるような取り組みが必要だと感じた。

(文責：永田明穂)



萩丘小 5年「はじめてみようクッキング」

5年生にとって初めての調理実習を行うにあたり、ガスコンロの安全な使い方を学ぶために、子供たちにとって身近な「お湯を沸かしてお茶をいれる」という活動を行った。導入でお茶の販売者を講師として招いてお茶講座を行い、お茶の歴史や効能、美味しいお茶のいれ方について教えていただいた。

子供たちは、講師の話聞き、お茶に関する理解を深めた。そして、自分でいれたお茶と一緒にお茶菓子を食べた。一煎目と三煎目ではお茶の味わいが変わることに驚いていた。また、保護者の方にもお手伝いをお願いし、子供たちは安全にお茶をいれる活動に取り組むことができた。

その後の授業でも復習をし、お湯を沸かす手順やお茶のおいしいいれ方の定着を図った。

【成果】

- ・お湯を沸かして美味しいお茶をいれる方法が定着した。
- ・多くの子供たちが家庭でも進んで実践している様子が見られた。

(文責：鈴木美晴)



〈講師による講話〉

第3回研修会 授業研究の見どころ

11月2日（水）14時より、第3回研修会を行います。今回は2つの会場に分かれて、授業を参観します。1～4部会は富塚小学校、5～8部会は北浜北小学校へ御参加をよろしくお願ひします。

<1～4部会>

6年「こんだてを工夫して」

～勤労感謝の日に、家族に感謝の気持ちを伝える献立チケットをプレゼントしよう～

富塚小学校 幸田奈々教諭

本題材では、児童の意欲を高めるために、「感謝の気持ちを伝える献立チケット」をプレゼントするという目的をもたせています。単なる献立の改善ではなく、家族の一員として、栄養を考えた食事づくりに主体的に取り組んでいこうとする態度を育てたいと考えました。

献立づくりの視野を広げる手立てとして、社会科の歴史学習で児童が興味をもった平安時代をはじめとした時代ごとの食事や、外国の食事を扱います。それぞれの食事について気が付いたことを、タブレット端末を用いてグループで整理し、よりよい献立にする方法を考えることで、献立作りの視点を広げていきます。さらに、グループ活動で得た視点を基に、自分の献立を見直し、実践に生かせるようにします。

<5～8部会>

6年「地域・家族とつながるプロジェクト」（共に生きる地域での生活）

北浜北小学校 保科麻衣子 教諭

本題材「8. 共に生きる地域で生活」は、2年間の家庭科学習のまとめに位置づけられています。本時では、自分や友達の活動を振り返り、地域の人々や家族とよりよく関わるためにどんな工夫をしようとしているか。それらの工夫から、児童がどんなことに気付き、今後の生活に生かそうとしているか。ここが見どころです。本来であれば、本題材は、地域でできることについて考えるのですが、新型コロナウイルス感染症を考慮し、家族という範囲も設け、児童の活動に配慮して授業を計画しました。

また、本題材の基盤となる内容項目の1つである、「A 家族・家庭生活」（4）「家族・家庭生活についての課題と実践」は、平成29年告示の学習指導要領にて新設された項目です。学習指導要領には、「日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、習得した知識及び技能を活用して様々な解決方法を考え、計画を立てて実践し、課題を解決する力と生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てることを意図している。」とあり、これからの社会で生きていく児童に、身に付けさせたい力に大きく関わる題材になります。

参考文献：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭科編

【編集後記】

実践紹介では、タブレットの活用や講師による講座など、児童が楽しく意欲的に取り組んでいる様子が伝わってきました。第3回家庭科研修会の授業研究は、児童が主体的に取り組めるような工夫や支援がたくさん盛り込まれた授業になるよう、1学期から構想を練ってくださっているのです、とても楽しみです。

まど担当 原田 佳代子